

I

問一

義務とは異なり責任は、ある結果を生じさせることに重きを置き、責任を負う者にある特定の成果がもたらされることを引き受けるよう命じる。例においては、専門の講師に講義を依頼することによって、教師自身が講義をもたなくても学生によりよい教育効果をもたらすようふるまったことになり、責任を果たしたことになるから。

問二

契約モデルにおいては、自発的に取り交わした契約がもたらす結果に対して責任を負わなければならないという考え方が前提されているため、自発的な契約によって形成される家族においては、このモデルに従えば、責任を負う者が一方的に責任を担うものだと考えられることになるから。

問三

責任が関係性から生じ、関係性に応じて、その重みが変化するのであれば、責任を果たすには親密な関係性が必要であると思われるかもしれないが、危害を避けるといふ結果がもたらされることを重視するグデインは、この結果をもたらすことのできる者が責任を負えばよく、責任を果たすうえで必ずしも親密な関係性が必要なわけではないと考えている。

問四

飢えという深刻な危害が子どもに及ばないよう対策を講じる責任は、その能力をもつ政府が負い、母親には政府とは別の仕方でも子どもに危害が及ばないよう努める責任が伴うことになるから。このように分かちもたれた責任をそれぞれが果たすことによって、子どもの傷つきやすい状況が克服されるという価値が生じる。

II

問一

ようやく買ってもらった腕時計を一週間前に紛失して叱られることを怖がっていた五郎は、失くしたものはないかという父の言葉によって、父に事情を知られたのではないかと不安に思い、左の手首から失われた腕時計の存在をことさらに強く意識したから。

問二

山に向かって名前を呼んで反応があると失せものが見つかるという話を聞き、紛失した腕時計も見つかるかもしれないと思って声をあげたが、呼び声は何の反応も起こらなかったため、馬鹿にされたような気になったと同時に、本当のことを父に打ち明けずに失せものの名前を隠したまま山に呼びかけた自分の行いに嫌悪感を抱いたから。

問三

なかなか戻って来ない父を待ち続ける不安や孤独から、見知らぬ道へと踏み込む父の姿まで想像してしまうまだ幼くもろい存在である五郎が、天敵を恐れて外からの情報に常に注意を払い聞き耳を立て続ける獣のように、周

困を警戒し、敏感になっている様子を比喩的に表現している。

問四

父との時間を過ごして大人の世界を垣間見た五郎は、父が何か大切なものを失くした者であり、この山でそれを探しているのかもしれないと思い、自分が今まで知らなかった一面を父が持っているということに気づいたから。

III

問一

(ア) いなくなってしまった

(イ) 我慢して泣きながら夜を明かして

(ウ) 見て判断した

問二

(a) 丑三つの時間となったので、(いらっしやらない) あなたの心のつれなさがわかりました。もうあなたを頼りにはしません。

(b) 夢にあなたが見えるかも知れないと思って、寝過ごして、子の刻が過ぎたのです。

問三

(1) ほんの少しも、出家しようという素振りを見せなかった。

(2) この上なく愛して子どももいた妻なので、良少将の出家を知ればひどくつらいと思うだろうし、その妻の姿を見れば、良少将自身の出家の意思が弱まってしまうと思ったから。

問四

世間の人は皆、(喪が明けて喪服を脱いで)花のように美しい衣に着替えたようだ。(帝の死をいたむ涙でぬれてる)私の苔の衣、つまり僧衣よ、せめて乾くだけでも乾いてくれ。

IV

問一

ちちきょうじんのころすところとなる。

問二

父を殺された姚牛が犯人を殺して父の仇を取り、子として孝道を尽くしたこと。

問三

県の長官の乗った馬が落とし穴に落ちそうになったので、杖で馬を打って進路を変えさせ、長官を助けようとしたから。

問四

県の長官は狩りの邪魔をされたことに激怒し、弓を引いて老人を射殺そうとした。

問五

姚牛は父の仇を討ち殺人の罪に問われたが、県の長官は姚牛の孝心に免じて許してやった。我が子を救ってくれた県の長官の配慮に対して、幽霊となった姚牛の父が負う恩義を指す。